

The World is not for sale!

10.28

午後6時開場、6時30分開会

エルシアター（エルおおさかホール）

地下鉄・京阪 天満橋駅から徒歩5分（地図裏面）



ジョゼ・ボベ 大いに語る

- 食・農・環境・平和 -

ジャンクフード（マクドナルドなど）と遺伝子組換え作物に *NO*
地域に根ざした持続可能な農業生産を！

公共サービスをマネーゲームに委ねる民営化・規制緩和に *NO*
雇用と働くものの権利を守ろう！

「反テロ」を掲げたグローバル戦争戦略に *NO*
アフガン、パレスチナ……全世界に平和と公正を！

ジョゼ・ボベさん歓迎集会実行委員会

よびかけ：ATTAC関西グループ（代表・杉村昌昭）

連絡先：スペースAK 06-4801-8844

反グローバリゼーション運動のリーダー ジョゼ・ボベさんが来日、各地で交流の計画

フランス農民連盟代表のジョゼ・ボベさんが、ATTAC - Japan（「市民のために投機への課税を求めるアソシエーション」）の招請で来日することになりました。ジョゼ・ボベさんは、1999年に建設中のマクドナルドの店を「解体」した（欧州が米国のホルモン肥育牛肉の輸入を禁止したことへの報復として、米国がフランス産のロックフォールチーズに対する制裁関税を課したことへの抗議）ことで新自由主義的グローバリゼーションに反対する運動の象徴的存在となりました。ボベさんは遺伝子組換え作物に対する反対や、反WTOのデモなどで常に行動の先頭に立ち、今年3月にはイスラエル軍によるラマラ侵攻に際して、パレスチナ自治政府の防衛のために駆けつけました。

多国籍企業の横暴に抗して

私たちは、フランスの労働者、農民、失業者、移住労働者、青年をはじめとする多様な社会的層の人々が「地球は売り物ではない」、「もう一つの世界は可能だ」を合言葉に、多国籍企業の横暴に対する広範な運動に取り組み、大きな社会的影響力を獲得してきたことに注目してきました。ジョゼ・ボベさんの来日を契機に、日本においても新自由主義的グローバリゼーションと「規制緩和」のさまざまな表れに対して抵抗する多様な運動の間の連携を通じて、新しい流れを作り出すことを私たちは目指しています。

安全でおいしい食べ物

安全でおいしい食べ物を守るためのボベさんたちの活動は、農民と消費者のつながり、持続可能な発展を目指す第三世界の農民たちとのつながりを作り出しています。BSE（いわゆる「狂牛病」）の問題で問われているのは、単に雪印や日本ハムの経営者の倫理観などではなく、農業・牧畜を効率・利益優先のアグリビジネス（農業関連企業）に委ねてはならないということです。

戦争と不公正のないもうひとつの世界をめざして

シアトルからジェノバへと高揚しつづけた新自由主義的グローバリゼーションに反対する全世界の人々の声は、「テロとの闘い」の名のもとで全世界に戦火を拡大しようとする動きに対する闘いとも結びつき、戦争と不公正からの解放をめざす「もう一つの世界」の可能性を論議に上らせつつあります。

私たちは、10月下旬に全国で開催されるジョゼ・ボベさん歓迎イベントの一環として、関西で10月28日（月）に集会を開催します。多くの方の参加・協力をお願いします



ジョゼ・ボベさんについて

17歳の時に兵役拒否闘争に参加。

1970年代初めに、ラルザック基地拡張反対運動に参加、これをきっかけに牧羊農民になる。(ラルザックの運動は1981年にミッテラン政権が基地拡張を中止したことにより勝利した)

1980年代に、中小農民・自作農民の国際連帯を目指して、「欧州農民連絡会」(ブリュッセル)を結成。

1990年代に、ピア・カンペシーナ(「農民の道」)の結成に参加。南インドのカルナカタ州農民連合、ブラジルのMST(土地なき農民の運動)などとともに。

1999年8月ミヨで建設中のマクドナルドの店を解体。(懲役3カ月の不当判決で、今年6月に入獄、8月2日に釈放)

【「船橋洋一の世界ブリーフィング」朝日新聞社、2000年7月28日号より】

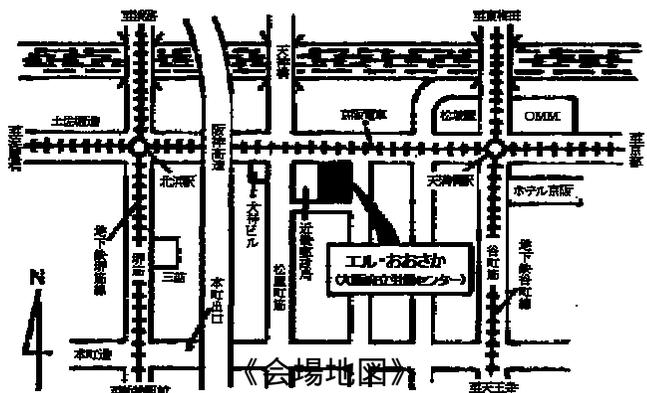
・・・昨年[1999年]夏、欧州が米ホルモン肥育牛肉の輸入を禁止したのに対して、米国がフランス産のロックフォールチーズに対する制裁関税を課したのが発端だ。この米政府の措置をWTOのパネルが支持したことにボベは怒った。ボベの住む地区は、あの大理石状青かび、ロックフォールチーズの産地として名高い。「にっくきはジャンクフード、にっくきはグローバリゼーション」というので、九人の仲間とともに、地元のマクドナルドの店を電気のこぎりで切り裂いた。

今月初め、フランス南部の農村、ミヨーで始まった公判では、人口二万のこの町に、世界のNGOの支持者たち約二万人が押しかけた。公判初日、ロックフォールチーズを山と積んだトラクターで引かれたトレーラーに乗って着いたボベは、集まった支持者たちに、「ロックフォールを救おう。ジャンクフードをやっつけよう」と叫んで、やんやの喝采を浴びた。・・・

2000年12月、シアトルのWTO閣僚会議に反対するデモに参加、その後も反グローバリゼーションの大きなデモには常に参加している。

2002年3月、イスラエル包囲下のラマラで、アラファト議長を防衛するための「人間の鎖」にも参加する。

【「インタビュー・農民の真のインターナショナルを」(「世界」9月号)より抜粋】





ATTACとは

ATTACは、「市民を支援するために金融取引への課税を求めるアソシエーション」の略称です。98年に6月にフランスで設立された新しいネットワークです。

はじめに

ATTACの運動は、97年12月にフランスの「ルモンド・ディプロマティック」誌に掲載されたイニャシオ・ラモネ氏の「市場を武装解除しよう」という表題の論説をきっかけとしています。この論説は、金融のグローバリゼーションを進めてきたIMF・世界銀行、OECD、WTOなどの「権力」を武装解除することが、「ジャングルの掟」による支配を阻止するための最優先課題であると主張しています。

投機的資本取引によって毎日1兆5千万ドルもの金が何度も取引され、それが高金利、債務の増加、大量のレイオフ等の問題を引き起こしています。この取引にわずかな税率(0.1%)を課すことで、投機を抑制するという構想は、72年にそれを提唱した米国の経済学者の名前にちなんで「トービン税」と呼ばれています。

ATTACはトービン税による税収(試算によると、世界の貧困をなくすために必要とされている金額の2倍になる)を世界の貧困解消等の目的で使うことを提案しています。

運動の広がり

イニャシオ・ラモネ氏の論説はフランスで大きな反響を呼び、多くの市民団体、労働組合、メディアによってATTACが結成されました。会員は3万人を超え、あらゆる地域でさまざまな活動が展開されています。その後ヨーロッパ各国やアフリカ、アジア、ラテンアメリカの多くの国でATTACの組織が結成されています。

運動の発展の結果、ヨーロッパでは国際金融取引への課税は趨勢となってきました。昨年11月には、フランス国会が国際金融取引への課税を条件付きながら採択しました。日本でも急速に注目されるようになっていきます。

日本でも

日本でも、昨年首都圏と関西でATTACのグループが結成され(その後、京都ATTACも結成されました)、ニュースレターの発行、学習会と宣伝、世界社会フォーラムへの参加等の活動を開始しています。まだスタートしたばかりで、運動方針もこれから、みんなで問題意識とアイデアと情報を持ち寄って考えていきます。会員募集中です。

ATTAC関西グループ

代表：杉村昌昭(龍谷大学)

連絡先：スペースAK06-4801-8844

または喜多幡06-6474-1167
